

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395700186		
法人名	社会福祉法人 成仁会		
事業所名	グループホームメドックガーデンビレッジ緒川		
所在地	愛知県知多郡東浦町緒川栄39番地1		
自己評価作成日	令和5年2月4日	評価結果市町村受理日	令和5年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
ヒアリング調査日	令和5年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・行動計画(ES・CS・OS・独自)を作成し、関わる人全ての満足度を挙げる ・下剤服用せず、毎日～2.3日に1回の自然排便が出ることを目標としている ・理念、サービスの心得、行動規範など、方向性を法人全体で示している ・職員主体ではなく、「利用者様」にとってを常日頃から考えられるように意識改革
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
<p>今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。</p> <p>①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念:法人全体で振り返りテストの実施などを行っている ・「言葉」だけ言える状況にならないよう、率先して会議や雑談でも、常に目指す方向がぶれないよう発言(会話)をしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナが始まってから、地域との触れ合う機会は減っている。その中でも、少しでもご家族様と関わられるよう、ガラス越し、パーテーション面会、手紙の交換、Ipad、GH新聞、一筆箋等で、関わりを繋げられるようにしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・ご家族様との会話等で、認知症の方の症状、習慣等も踏まえ、対策の提案をしている ・入居相談時等、認知症への理解の部分で、こう考えるというような話もしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・コロナになり、書面開催が増えてしまい、積極的な意見交換とまではなっていないが、他事業所の意見を聞き、職員へ、雑談程度にはなっているが、情報を伝えている。また、こちらの取り組み等も、できる限り運営推進会議で伝えるようにしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議が主な場となっている ・不明な点等は、知多北部広域連合に問い合わせているが、主に加算関連になってしまっている →今後は、もう少し積極的に情報交換できるようにしていきたい		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・「身体拘束」への理解は、職員により「差」があった為、見直しを図った(身体拘束が良くないという事は理解しているが、身体拘束そのものの理解に差) ・制限をかけない取り組みは、「拘束」だけではなく、会議等でも伝えている(尊重)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・法人全体で虐待に関して、虐待に繋がる、「不適切ケア」へのチェックに取り組んでいる。当事業所は3ヶ月に1回のチェックで良かったが、1ヶ月に1回のチェックを希望し、チェック内容の見直しをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・「権利擁護」という言葉で話しをする事は少ないが、「尊重」「自立支援」「想い」等、ご本人様を尊重した上での話し合いを実施している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・疑問等は、契約の時に関わらず、日々から実施している ・リスク等の説明、当事業所が大切にしているものなども踏まえ説明し、お客様が求めているものと一致しているかも再確認して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・担当者会議、日々からのコミュニケーション、委員会での、お客様アンケートでの意見等、反映できる事はさせて頂き、現時点で難しいものは、説明させて頂いている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・不足している部分はあると思うが、日々から意見を聞き、その上で、必要と判断した場合は取り入れ、できない事は職員にも説明(優先順位等)		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・当法人で、グッドスタッフ(360度評価)認定を取り入れ、上司評価のみでなく、全体評価も考慮 ・賞与では、特別賞与に該当する職員の何を評価したかを発信 ・残業を減らせるよう、勤務等は公平性を保てるよう努めた(行動計画に反映)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・全職員が受講するスキルアップ研修、正社員が受講する施設内研修等、参加できるようにしている ・会議やカンファ、申し送り等で、疑問や不安への解決に向け、話し合っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・コロナになってから、他事業所との交流は少ない。同じ法人内でも、他事業所等で、話す機会を設ける等、閉鎖的な考えにならないように、今後は工夫したい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・担当制を実施し、より理解できるようにしているが、職員個々により差が出ている。また、周囲から情報を得ても動き出せていない職員もいる為、サポートが必要		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族様とは、コロナになってから、主に電話対応が増えている。説明の不足等も発生しており、こちらもそれを理解している。説明、理解等、今後の課題としている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・グループホーム内なので、その中で完結してしまうサービスが多いが、出来るだけ、ご家族様のサポート(支援)の協力も得ている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家事活動(調理、掃除、洗濯等)の参加、作業等、それぞれの利用者様が出来る事への参加を実施 ・完成度よりも、「参加」を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご利用者様と手紙の交換をして頂いたりしている ・転倒の対策や、状態変化に対し、ご家族様とも相談し、一緒に改善していくよう努めている。あくまで、私たちは提案者であり、最終的には、ご本人orご家族様に決定して頂く		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・コロナになり、直接的な面会はできないが、ガラス越し面会等では、関係性に制限なく行っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・リビングでの席への配慮等、それぞれの習慣、癖、気持ちを考慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス終了後は、こちらから連絡する事などは、少ない現状ではあるが、当事業所内(特養等)で引越されたケースでは、退去後も、ご家族様に、ご本人様が写っている新聞を郵送させて頂いたり、ご本人様に会いに行かせて頂いた		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・当事業所の理念、サービスの心得でも、ご本人の思いを大切にしている。過去の生活歴を含め、口にはできない思いの部分を理解し、ケアプランの作成、実施に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に、過去の生活歴、趣味嗜好等、ご家族様に協力して頂き記載してもらい、入居後は、そこを意識しながら活動への参加をして頂いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・過去の生活歴、現在の身体状況を確認しながら、生活リズムの整え、残存機能の活用へ。職員で、統一できていない部分が、まだあるが、カンファ等で話している。また、話し合いができないケースでも、担当者から発信、呼びかけするよう、伝えている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・カンファ、担当者会議の実施、日頃得た情報等を基に、見直しを行っている。「アイデア」は、まだ不足しているが、行動計画(独自)で目標としている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・モニタリングは、記録からも情報を拾い上げている ・精神面の変化等あれば、集中的に記録を入力するケースもある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・できる限り、「想い」の部分を大切にしたいと思っている為、叶えられる手段を考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・グループホームじたいが社会資源ではあると思うが、他の資源も特にインフォーマルな資源を今後はもう少し活用できるようにしたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・往診希望の方は、往診契約を、受診希望の方はかかりつけ医を、と意向に対応 ・往診時に、受診での検査が必要等ある際は、ご家族様にも説明し、判断して頂いている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護は週1回：情報提供 ・往診：月1～2回(契約による)の診察 通常の診察以外でも、グループホームの取り組みや、医療で不明な所があれば、教えてもらう事もある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・近隣の病院に入院される事が多いが、SWの方と、ご家族様の心境も踏まえ、情報交換、共有している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に説明。看取り対応になる直前にも再説明し、看取りに対する理解を得るようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・入社時に「普通救命講習」の研修を義務づけている。しかし、定期的な部分では、不足している為、今後は必要と感じる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・不足。年2回の避難訓練でも、消防からも、厳しいコメントを頂いている。マニュアルはあるが、把握していない職員が多い。優先順位として後回しになっている状況		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・居室扉は閉める、訪室時はノックや、接遇では敬語を等、「尊重」に関しては、当法人では再三の呼びかけ、徹底を目指している(特に言葉遣い)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・「～して下さい」ではなく、常に会話は、「～しましょうか？」というような疑問文で声をかけ、最終決断はご利用者様ができるように伝えている ・二者択一、頷き等も踏まえ、質問の仕方の工夫をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・全利用者様とのバランスもある為、全てにおいては出来ていないが、日頃の様子を把握し、定期的に見直しを行っている ・職員目線にならないようには伝えているが、まだ出来ていない部分もある(以前よりは改善傾向)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・職員により差があり、最低限の身だしなみが整っていない時もあった。今週の目標等に取り入れられたり、改善に向け、個別指導の実施を行った ・化粧や髪の毛を伸ばしている方など、ご本人様の想いを大事にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・日々、調理には参加して頂いている ・週1回:お好み昼食を実施し、ご利用者様の好きな物を提供 ・お持ち帰り弁当(寿司)を取り入れる事もある ・居酒屋、モーニング等も月1回実施している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日の水分摂取目標をおおよそ1500Ccとし、便秘改善も含め、水分摂取アップに取り組んでいる ・目標に届かない方は、提供方法、内容等、全体を見て、見直しを行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・実施できている。口腔ケア用品も、歯ブラシから歯間ブラシ等、使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・当法人の排泄目標として、全ての方が、トイレで自分で排泄ができる事を目標とし取り組んでいる。まだまだ、失禁等も多く、課題はあるが、安易にオムツにしないようにはしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・1日1500CCの水分摂取を目標とし、乳製品やその他(あまぎけ、青汁等)便秘改善に良い物、「の」の字マッサージも、体操時に取り入れるなど、積極的に便秘改善に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・ある程度、時間や曜日は決めているが、ご本人が時間の変更を希望されたり、受診等で変更が必要な時は、対応できる範囲で対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・体力や夜間の睡眠状況に応じて、日中の臥床を取り入れている ・夜間は安眠に繋がられるよう、日中はできる限り、活動への参加ができるよう取り組んでいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・担当者により、理解の「差」はある。しかし、薬情を確認できるようにしている為、不明な点は薬情を確認する等している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ボランティア活動への参加、家事活動への参加等、その方にあった活動への参加で、役割を担って頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナ禍で外出は、ほとんど実施できていない。ここ最近になり、少しずつ、ひとけの少ない公園、ドライブスルー等の活用で、わずかではあるが再開した所ではある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個人ではほとんど管理されていないが、預り金の活用をしている。しかし、コロナ禍になり、ご利用者様じたいが、買い物に行く機会がない為、自動販売機等も活用を始めた		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話を持参されている方もいる ・ご家族様と手紙の交換も取り組みとして行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節に設えは定期的に、担当が実施している。作成には、利用者様にも参加して頂いている ・トイレが分かりにくい方には、トイレマークの活用など、「質」を損ねない範囲で実施している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・席への配慮、ソファ等を使用し、空間作りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・タンス、ベッド類等の家具は、ご家族様に準備して頂いている ・居室には、ご家族様の写真や以前の趣味の写真等も飾って頂いたりしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室は表札：自室が分かるようにしている ・動線上に不要な物は置かないようにしているが、殺伐とした雰囲気にならないようにもしており、「家」である部分と「自立」の部分、どちらも損ねないようにしている		